2023 年度　　授業概要

科目名	運動障害性構音障害Ⅰ				授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年時期	ST2年　前期

【授業の目的・ねらい】
運動障害性構音障害の定義と分類、原因疾患とメカニズムおよびその特徴について理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。

【実務者経験】
言語聴覚士としてツカザキ病院に勤務、急性期、回復期、外来の失語症、高次脳機能障害･嚥下障害･構音障害分野でのリハビリテーションに従事。

【授業全体の内容の概要】
運動障害性構音障害の定義と分類、原因疾患メカニズムおよびその特徴について理解できる

【授業終了時の達成課題（到達目標）】
運動障害性構音障害の概要を把握し、臨床場面で適切かつ必要な検査・評価の選定および実施するための基礎を習得する。体験実習において症例の観察と記述が行える。

回数	講義内容	準備物(教材)
1	運動障害性構音障害の基礎知識を習得し、運動系（錐体路）を理解できる。	テキスト
2	運動系の障害の理解（錐体路）、発話特徴の概要を捉える。	テキスト
3	運動系（錐体外路・小脳）が理解できる。	テキスト
4	運動系の障害の理解（錐体外路・小脳）、発話特徴の概要を理解できる。	テキスト
5	タイプ分類ごとの病態特徴・重症度を理解できる。	テキスト
6	AMSDの概要を理解できる。	テキスト
7	運動障害性構音障害の基本的な評価および検査を理解し、実施できる	テキスト
8	運動障害性構音障害の基本的な評価および検査を理解し、実施できる	テキスト
9	運動障害性構音障害の基本的な評価および検査を理解し、実施できる	テキスト
10	各種所見、検査結果のまとめ方、ICFの考え方を理解できる。	テキスト
11	呼吸機能へのアプローチ方法を理解できる。	テキスト
12	発声機能へのアプローチ方法、補装的アプローチ方法を理解できる。	テキスト
13	口腔構音機能へのアプローチ方法①を理解できる。	テキスト
14	口腔構音機能へのアプローチ方法②を理解できる。	テキスト
15	拡大・代替コミュニケーションアプローチを理解できる。	テキスト
	定期筆記試験	

【使用教科書・教材・参考書】
ディサースリア臨床標準テキスト

【準備学習・時間外学習】
講義終了後、毎回の復習が必要です。

【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】
試験の結果を100点満点として成績を評価する。
小テストを50点、定期試験を50点として合計100点とする。
60点以上の場合に科目を認定する。